

音順	方劑名	生薬構成 および製法・服用方法
	傷寒論・金匱要略条文	読み および解説・その他
しー19	炙甘草湯	<p>甘草 (甘平) 4g・桂枝 (辛温)・生姜 (辛温) 各3g・麦門冬 (甘平) 5g・麻子仁 (甘平) 4g・人参 (甘微寒) 阿膠 (甘平) 各2g・大棗 (甘平) 5g・生地黄 (甘寒) 16g</p> <p>上の9味を酒280mlと、水320mlを以って先ず阿膠以外の8味を煮て120mlとなし、滓を去り阿膠を入れて再び弱い火にかけてよくかき混ぜて溶解し、1回40mlを1日3回温服する。</p> <p>弁太陽病脈証併治下第七第50条 (傷寒論)</p> <p>「傷寒、脈結代、心動悸するは炙甘草湯之を主る。」</p> <p>解説 傷寒を病んでいる中に、結脈とか、代脈を打って来て、心臓が動悸がして激しくなったものは、炙甘草湯が主治する。太陽膀胱経と少陰腎経は、表裏関係にあり、その臓腑は経脈でつながっているの、もし太陽病に対して誤った発汗法をしたり、誤って下剤で下したりすると、陽気を損傷し、心の陽気も少し損傷を受ける。元々少陰経の心が虚して、体全体の気血も不足して顔色が白く、疲れ易く、手足が冷え、汗をかき易く、盗汗もある様な傾向のある人は、陽気の損傷の影響を受けて心陰陽両虚による症状を呈する様になる。すると「心は血脈を主る」、即ち宗気の生成が不足して気血がスムーズに流れないために、脈は細弱数で結代し、息切れする様になる。また心陰不足により、心が養われなくなり、動悸がして不安感が生じ、「心は神を主る」作用も失調して不眠にもなる。この他に、津液不足により、大便が乾いて硬くなり、口渴、乾咳、眩暈、耳鳴り、手足心熱、舌質は淡紅、少苔乾燥になる。この様な状況の時は炙甘草湯により、心の気血を滋養すると脈が正常に戻り、心動悸が治る。</p> <p>炙甘草は、益気補中し、気血を化生し復脈させる。人参・桂枝・生姜は、心気を益し、心陽を通じさせる。生地黄・麦門冬・阿膠・麻子仁・大棗は、心血を補い心陰を滋潤して血脈に栄養を与える。</p> <p>炙甘草湯 (復脈湯) 証 動悸、不整脈、息切れ、咳、便秘、疲れ易い、のぼせ、口燥などの症状を目標として、心臓病、高血圧症、リウマチ、喘息など広く用いられる。</p> <p>参考 加減復脈湯 (炙甘草湯 一人参・桂枝・生姜・大棗 + 白芍薬) は、発汗過多などにより津液が消耗し、陰血が虚して衰弱し、脈が結代し、動悸がするものに用いる。</p> <p>脈結代には、結脈と代脈とがあり、 結脈は、気血の凝滞を表し、休止時間が短く、割りに早く拍動を再開する。 代脈は、臓気の衰微、虚損を表し、七情驚恐 (精神的ショック) や打撲損傷でもみられ、休止時間が長く、割りに拍動の再開が遅い。 常に無理な労働をしている人は、三焦のいずれかの血が不足して陰気が虚す。 上焦の陰気が虚した場合には、炙甘草湯証となる。 中焦の陰気が虚した場合には、小建中湯証となる。 下焦の陰気が虚した場合には、八味地黄丸証となる。 これらの陰気が虚している人が傷寒に罹った時は、先に上記の薬方を用いて補った後で発汗しなければならない。 炙甘草湯の咽喉のいがらっぽさは、発作的で、半夏厚朴湯の様に、いつも咽喉がおかしいと訴えることはない。</p> <p>炙甘草湯証 新古方薬囊によれば「脈の結代と、心の動悸にあり、脈の結代とは、脈が早く無くて、つまり脈の打ち方がゆっくりとして居て、時々休むものを言う。トントンと打って来て一度休んで、復トントンと打つ者もあり、トントントンと打って来てひと休みして、復トロトロトロトントントンと打つ者もあるなり。心動悸とは胸のドキドキする事なり、平常弱き人にて、汗が出て胸苦しくなる者。又は過労などした後汗が出て胸苦しく動悸する者。熱が少しあり、咳が多く、痰や唾が余計に出て、胸の中がポカポカとして来て、何とも言へず気持ち悪き者。本方は、虚弱の人、または無理をし過ぎて生じたる諸の病に宜し。肺の病にも宜しき事あり。」と記されている。</p>
	炙甘草湯 (千金翼) (=復脈湯)	処方・用法は 炙甘草湯 と同じ
	血痺虚勞病脈証併治第六第19条 (金匱要略)	
	「千金翼 炙甘草湯 一名復脈湯とも云う。虚勞不足にて汗出でて悶む、脈結悸を治す。行動常の如きなるも、百日を出でずして危うく急なる者、11日に死す。」	
	<p>解説 千金翼にある炙甘草湯は、虚勞で血気が不足し、汗が出て胸苦しくなり、脈が結で動悸がし、行動は異常がなく普段と同じ様な状態ではあるが、脈の結 (不整脈) が始まってから百日経たない内に危ない、急の場には11日にて死ぬ。</p> <p>千金翼にある炙甘草湯は、一名復脈湯とも云う。虚勞で営衛、陰陽の血気が不足し、汗が出て胸苦しくなり、脈が結で (不整脈があり) 動悸がして、発作時でない時の行動は異常がなく普段と同じ様な状態ではあるが、脈の結 (不整脈) が始まってから百日経たない内に危ない、急の場には11日にて死ぬ。</p> <p>炙甘草湯の甘草は、胃腸を補い、心陽の虚に命門の火が乗ずるのを防ぐ、桂枝去芍薬湯の方意を以って上焦の陽気、心陽を補い、麦門冬・麻子仁・阿膠で上焦の陰気、肺陰を滋潤し、心肺の血気を調和せしめる。人参で胃、心の陽気を助け、生地黄で裏の命門の火のたかぶりを理め、肺陰をも滋潤せしめる。</p>	
	炙甘草湯 (外台)	肺痿肺癰咳嗽上気病脈証第七第15条 (金匱要略)
	「外台 炙甘草湯 肺痿で涎唾多く心中温温液液の者を治す。」	
	<p>解説 外台の炙甘草湯は、肺痿の病で、ぬらぬらしたつばき (痰) が多く、胸の中がポカポカとして来て何とも言えず不安で気持ちが悪い者を治す。</p> <p>温温は、熱煩する様子で鬱塞せる様子をいう。液液は、涎唾の流出する様子をいう。</p> <p>外台炙甘草湯は、虚勞状態を確かめてから用いるもので、虚勞だけでは無く、咳や喘息にも用いられる。</p>	